

## 四季成り性イチゴ「なつあかり」の春植え栽培における定植時期の前進化と増収効果

## 【1 成果の要約】

- (1) 「なつあかり」の越冬苗を、2月中旬～3月中旬に定植することで、慣行の4月中旬定植や5月中旬定植より増収します。
- (2) 定植時期の前進化により収穫最盛期が6月からになります。夏秋いちごの需要期である7月以降の収量は他の作型と同等となります。

## 【2 成果の内容】

表 定植時期と株当たり収量(2008～2009)

定植時期	株当たり収量(g/株)			株当たり収穫果数(個/株)			上物果平均 1果重(g/個)
	上物果 <sup>z)w)</sup>	B品 <sup>y)</sup>	総収量 <sup>x)</sup>	上物果 <sup>z)w)</sup>	B品 <sup>y)</sup>	総収穫果 <sup>x)</sup>	
2月15日	252 a	140	692	22.6 a	23.0	60.6	11.1
3月15日	241 ab	140	679	21.7 ab	22.7	63.3	11.1
4月15日	171 bc	128	534	15.7 bc	20.5	56.3	10.9
5月15日	129 c	108	404	12.6 c	17.2	42.1	10.3

<sup>z)</sup>上物果:7g以上の正常果と15g以上の形状の劣る果実

<sup>y)</sup>B品:4～7gの正常果と15～7gの形状の劣る果実 <sup>z)</sup>総収量・総収穫果:上物果+B品+格外

<sup>w)</sup>上物果の異なるアルファベット間はTukeyの多重検定により有意差が認められる(p<0.05)

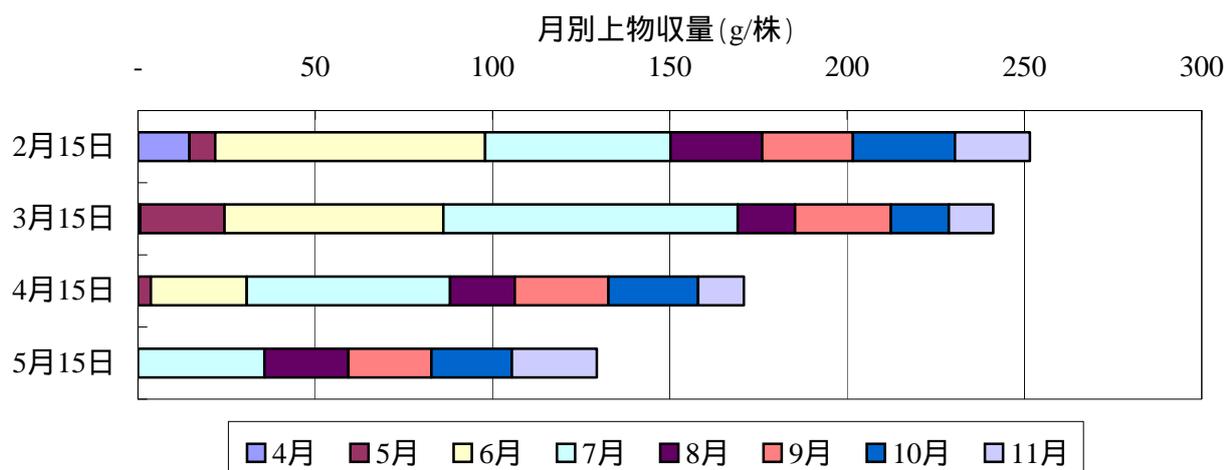


図 定植時期と月別上物収量(2008～2009)

## 【3 留意事項】

- (1) 本試験では、自然条件下で越冬した10.5cmポリポット苗を、畑土粗殻混合培地を充填した発泡スチロール栽培槽へ定植し、高設栽培による点滴かん水施肥で管理しています。
- (2) 積極的に加温する必要はありませんが、低温期に定植するため給液配管等の凍結防止対策を行い、2重被覆等による保温に努めて下さい。
- (3) 「なつあかり」の休眠打破に必要な5℃以下の低温遭遇時間は1500時間以上ですが、2月中旬定植では低温量が不足し半休眠状態となるため、ランナーの発生が少なくなります。

## 【4 適応対象】

四季成り性イチゴ生産者、新規生産者、指導機関